

は し が き

社会の複雑化がもたらす環境的状况と文化的風土のなかで、価値観の転換によって生まれた新しい価値を、もっとも敏感にとり入れるのは若い世代であろう。

激動する現代社会に、押し流された人間性を回復し、荒らされた生活の場を、子どもたちのためにとりもどすことが、こんなにちほど望まれる時代はない。この時代にあって若い世代と日夜とりくんでいる教師は、常に新しい価値に対応しなければならない重責を背負わされているといわなければならない。思うに学校教育の根幹は教師であり、その教師をして教師たらしめる根本は、教師自らの不断の研修にあるものと信ずる。また、この研修によってこそ、ひとりひとりの教師が真剣に自己をみつめ、問いかけ、叱正練磨し、自己自身の成長に努力を傾けるなかで、人間として、教師としての喜びを実感し、教師としての生きがいをもより確かなものにしていくことになるのではないだろうか。

当教育センターにおける教育相談関係事業は「子どものための教育相談」に応ずるとともに、いわゆる教育相談はもちろん、学習適応、生活指導、幼児・家庭教育、特殊教育に関する一連の継続的研究をおこない、これらの成果をいかした、学校カウンセラー養成をはじめ、心身障害児判別実技講習、幼児・家庭教育研究会、生徒指導講座などの研修をおこなってきた。

ここに昭和45年度に教育相談関係所員がおこなってきた研究を、研究集録第4集教育相談編として刊行するにあたり、大方のこの道の研究や実践の参考として、ご活用くださるとともに、ご叱正とご批判とをいただけることをせつにお願いする次第である。

おわりに、これらの研究にあたたかいご協力をいただいた多くの関係各位に対し厚くお礼を申しあげたい。

昭和46年3月

新潟県立教育センター所長 大黒山平